

会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和元年度 第1回社会教育委員会議定例会		
事務局 (担当課)	生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286(直通)		
開催日時	令和元年5月14日(火)午前10時~正午		
開催場所	相模原市役所 第2別館5階 教育委員会室		
出席者	委員	12人(別紙のとおり)	
	その他	0人	
	事務局	9人(生涯学習部長他8人)	
公開の可否	可	不可	一部不可
	傍聴者数	0人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題 (1)研究調査「(仮称)今後の地域コミュニティづくりにおける社会教育の役割」について ア 平成30年度第5回及び平成31年度第1回小委員会の報告 イ これまでの検討経過と今後のスケジュール ウ 骨子案 エ その他</p> <p>3 報告 (1)平成30年度神奈川県社会教育委員連絡協議会理事会について(報告) (2)平成31年度神奈川県社会教育委員連絡協議会第1回理事会について(報告) (3)その他</p> <p>4 その他</p>		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言)

1 生涯学習部長あいさつ

大貫生涯学習部長があいさつを行った。

2 事務局職員紹介

事務局職員の紹介を行った。

3 あいさつ

古矢議長があいさつを行った。

4 議題

古矢議長の進行により議事が進められた。

(1) 研究調査「(仮称) 今後の地域コミュニティづくりにおける社会教育の役割について」

ア 平成 3 0 年度第 5 回及び平成 3 1 年度第 1 回小委員会の報告

石川小委員会委員長が、3 月 1 9 日 (火) 開催の平成 3 0 年度第 5 回小委員会及び 4 月 1 5 日 (月) 開催の平成 3 1 年度第 1 回小委員会で出された主な意見等についての報告を行った。

イ 今後のスケジュール

事務局からこれまでの検討経過と今後のスケジュールについての説明を行い、了承を得た。

ウ 骨子案

古矢議長が骨子案の趣旨及び今後の進め方について説明を行った後、協議に入った。
主な意見等は次のとおり。

様々な活動をしている委員それぞれの持ち味を生かして、思いを語るような報告書としていきたい。委員の多重で多層な活動を見せていくことが大事である。

報告書は、読みやすく、手に取って役立つものとしたい。そのために、1 つの項目を 2 0 0 字程度とし、コラムなどをはさみながら、3 0 ページ程度のものとしたい。

地域でのつながりが弱くなった時にどのような問題が生じ、どのように対処していくのか。実践的で参考になるような事例を入れて読みやすいものにしたい。

システムと環境を作ることで、人は変わっていくし、そこから本人の生きがいや健康という問題にもつながっていくので、心理学の知見も踏まえてマズローや雰囲気づくりのサポートなどをコラムに入れることで、具体的な提案書になるのではないかと。

自己実現は大変重要と考えていたが、厚生労働省の福祉社会実現の報告書の中にも色濃く出ているので、方向としてはよいのではないかと。

外国籍の方の学びの場としてプロミティなどがあるが、地域として考えた場合、公民館

など身近な場で意外と行われていない。地域の人と関わりながら、その国の生活習慣を知り、相互理解ができる場があるとよいのではないか。

公民館では、伝統的に女性学級や高齢者学級などのセミナーは多いが、外国籍の方や障害のある方などへの講座を地域で行うことで、新たな交流が起こることも考えられる。

報告書の書き方としては、最初に社会教育としての考え、次に福祉とか他の所管や活動している団体と分けて書くのがいいのではないか。

社会教育に関わる人として、行政の職員が計画の策定や公民館などで地域に密着した活動をする際にどういう経験や知識が必要なのか。一方、地域では、自治会だけではなく、様々な活動をされているリーダーや NPO の方も人材として考えられる。多くの方が生涯学習に関わることができる仕掛けによって、横でつながるような意識が出てくると、場づくりは変わってくるのではないか。

課題の掘り起こし役が必要ではないか。いろいろな課題が「わたくしごと」化していて、ニーズがニーズになり切れない感覚がある。具体的には困窮の子どもたちで、勉強できないから高校に行かないと言っているが、実際には金銭的な理由の場合がある。いろいろな状況があるにも関わらず、勉強できないでまとめてしまうことによって、「わたくしごと」化して、自分の問題と割り切ってしまうが、本来は、社会が支えられる部分と本人が頑張る部分とあるはずなのに、見えてこない。こうした課題を掘り起こせる人をどのように作っていくかが問題と考えている。

人づくりや場づくりに当たっては、現場を見学することでどういう人材や場所が必要だということが分かると思う。

相模原モデルの創造については、公民館への社会教育士の研修生の受け入れや資格取得後の活躍の場の提供、32館の連携・ネットワーク、事業の役割分担ということを具体的に記載していけばよいのではないか。

公民館は、本来の活動は残しておいて、コミュニティセンターの機能を加えることで、みんなが集える場となる。こどもセンターなど対象を特化した施設が多くあるが、誰でも利用できる場にするとよい。

公民館では、サークル内での仲間内は集まるけれども、他とは交流しない。そうしたところが一緒になるとつながりが出てくる。福祉分野では、市民活動サポートセンターと社会福祉協議会のボランティアセンターと国際交流ラウンジが情報をまとめて公開しており、社会教育においても一元的に情報を提供できる仕掛けが必要ではないか。

公民館は、知り合い同士がやっているというイメージがあって、一人で行っても入れる感じがづらい。

この報告書は、コミュニティづくりが目的ではなく、結果としてそこにたどりつけるような記載としたい。

社会教育の活動に参加すると得られるものがある。参加するきっかけを提示するのがよいのではないか。

行政に対する提言だけではなく、自分自身を振り返るような記載はどうか。

地域は、意識的な働きかけがあって作られていくものであり、それが経営である。

公民館は、業務が多くて本来の機能を果たす職員が足りず、図書館ではほとんどの業務が委託されている。博物館では専門職が地域での講座などへの対応で本来の研究業務に手が回らないといった状況で、地域活性化などの新たな役割を期待されて対応できるのか。

地域活性化などの役割を職員だけではなく、地域の人たちも入っていく。資格を持った人たちもいるだろうし、そういう人材を活用した形も考えられるし、人材育成をする機能が市にあってもよいのではないか。

5 報告

(1) 平成30年度神奈川県社会教育委員連絡協議会理事会について(報告)

古矢議長が報告を行った。

(2) 平成31年度神奈川県社会教育委員連絡協議会第1回理事会について(報告)

古矢議長が報告を行った。

(3) その他

特になし。

6 その他

特になし。

古矢議長のあいさつにより、会議を終了した。

以 上

令和元年度 第1回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠
1	佐藤 正文	相模原市立小学校長会		欠席
2	齋藤 敦	相模原市立中学校長会		出席
3	金子 友枝	相模原市文化協会		出席
4	神谷 昌義	相模原市立小中学校 P T A 連絡協議会		出席
5	渡邊 亮	相模原市公民館連絡協議会	副議長	出席
6	安西 信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
7	古田 政子	子育て親育ち応援団 with.cfc		出席
8	大橋 千景	虹のおはなし会		出席
9	石川 利江	学識経験者(桜美林大学教授)		出席
10	牧野 修也	学識経験者(神奈川大学・國學院大学 非常勤講師)		欠席
11	古矢 鉄矢	学識経験者(学校法人北里研究所参与)	議長	出席
12	小林 政美	学識経験者(特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら 副代表理事)		出席
13	青木 智野	公募		出席
14	藤井 智	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク 常務理事		出席

出席者 12名 欠席者 2名